

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 すきっぷ神楽		公表日		令和 8年 4月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを大切にし、活動内容に合わせて空間の使い方を工夫している。整理整頓や安全面にも配慮しながら、子どもが見通しを持って行動できる環境づくりに取り組んでいる。	職員間で意識に差が出ないよう、目的や必要性を共有しながら継続的に見直しを行っていく必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国で決められた配置基準を満たしているが、伝わりにくい情報である。	法人全体のバランスを考え、子どもたちにとってより良い療育を提供できるよう、今後も法人として人員配置を行っていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		トイレやスロープには手すりを設置している。活動中はおもちゃ用クローゼットの扉を開める、スケジュールボードと時計をセットで確認できる配置にするなどの配慮を行っている。	支援中、スタッフにより物が乱雑に置かれてしまうため、都度片づけるなどの意識付けが必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		環境整備委員会を設置し、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を意識した環境づくりに取り組んでいる。日々の清掃はチェック表を活用している。活動内容に応じて体育館を使用するなど、子どもたちが安全にのびのび活動できる環境づくりを行っている。	スタッフ個々の意識に差があるため、環境整備の目的や重要性を共有しながら意識統一を図っていく必要がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		送迎時間帯は職員体制の関係で個別対応が難しい場合もあるため、使用できる時間帯を明確にしながら、可能な範囲で対応している。	送迎時間でスタッフ人数が少ないときに対応できないときがある。使用できる時間を明確に伝え対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援会議や日々のミーティングで話し合いの場を設け、職員間で支援の振り返りや情報共有を行っている。また、委員会活動や各種チェック体制を通して、職員個々の努力だけに頼るのではなく、組織として支援の質の向上に取り組んでいる。	職員全員がPDCAサイクルを意識して支援の振り返りや改善に参画できるよう、ミーティング等を活用しながら意識向上を図っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価や職員の意見を踏まえ、全職員で話し合い改善につなげている。結果については職員間で共有し、支援の質の向上につなげている。	保護者さまの意向を丁寧に把握し、職員間で共有することで支援の改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談やミーティング等で機会を設け、改善につなげられるよう努めている。	全職員がより多くの意見を提案できるよう意識を高め、精度を上げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	重要事項にも記載しているが、第三者評価は実施していない。	必要性を感じた際は検討をしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人研修を毎月開催している。今年度より全職員を対象としたアンケートを実施し、現場の課題や希望をもとに研修内容を決定する仕組みを導入した。	職員の専門性の向上と支援の質の向上に取り組んでいく。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPIに掲載している。定期的に見直しを行っている。	より保護者さまへ周知できるようにしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日々の支援の中での気づきをシートに書き込み共有し、計画作成時に精査している。今年度よりフォーマルアセスメントの書式を作成し導入したことで、インフォーマルアセスメントと併用しながら多角的な視点で子どもの理解を深められるよう取り組んでいる。	記録が苦手な部分に着目しがちになる傾向があるため、子どもの強みや成長にも着目したアセスメントを意識していく必要がある。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的に全職員で個別支援会議を行い、子どもの最善の利益を考慮しながら支援内容を検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画は全職員が日々確認できるよう、支援記録ファイルの裏表紙に貼付し、すぐに確認できる環境を整備している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		今年度よりフォーマルアセスメントの書式を作成し導入したことで、インフォーマルアセスメントと併用しながら多角的な視点で子どもの理解を深められるよう取り組んでいる。	フォーマルアセスメントの項目整理や活用方法についてはまだ発展途中であるため、今後は記録の精度を高めながらインフォーマルアセスメントと併用し、より客観的な支援計画作成につなげていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域に合わせて支援目標や内容を設定している。		

支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月全スタッフで意見を出し、担当が取りまとめを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		体育館使用日等一部固定のものもあるが、極力曜日固定を行わないことで、利用児が様々な活動に参加できるよう配慮している。	誕生会が木曜日固定のため、曜日固定により参加できないお子さまがいる。たくさんのお子さまに参加するかどうかを選択していただけるよう、今後は土曜日や祝日に設定する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもに合わせ、集団活動の中での個別対応を適宜組み合わせさせて計画を作成している。活動によりグループ分けや席順の配慮を行い、集団の中で個別配慮しやすい工夫を行っている。自由遊びのなかで個別の課題に取り組むなど工夫している。	子どもの状況に応じて、個別の関りや配慮を行いながら、安心して活動に参加できるよう支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝ミーティングを実施しており、活動内容の確認や役割分担を行っている。	職員それぞれが自分の役割だけでなく、全体の動きを見ながら柔軟に支援できるよう意識を高めていく必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援当日は引継ぎを行い翌朝のミーティングにて全体で共有している。	気づきを言語化する力や共有する意識には個人差があるため、発信しやすい環境づくりや振り返りの質の向上を図っていく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ケース記録の様式を見直し、より具体的に残せるようになった。	客観的事実と支援者の解釈を区別した記録を意識し、支援の検証に活かせる記録の質を高めていく必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年以内でモニタリング会議を開催し、職員全員で意見を出し合い、進捗や計画見直しの必要性を判断している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育園との情報共有や、主治医との手紙のやりとりなど、保護者さまの協力のもと関係を深めている。	今後も保護者の協力のもと連携の方法を模索していく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		現在利用する全てのお子さまが保育園等と併行利用しており、送迎時などで情報共有を行っている。小学校就学やむけ、見通しを持った生活や集団生活での困り感を減らすよう支援している。	保育園と支援計画の共有などができると更に良いと感じる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者さまが希望した場合は事前に情報共有を行っている。小学校就学後は送迎時などで情報を共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	児童発達支援センターとの交流の機会がない。	併用しているお子さまもあらず、児童発達支援センターとの交流の機会がない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		Tボールなどの運動活動やスキー支援等で一般の子どもたちと関わる機会を設けている。また、公園外出の際には順番を譲る、遊具を共有するなど、地域の子どもたちとの関わりの中で社会性を学ぶ機会を大切にしている。	活動内容や参加状況により地域の子どもたちとの交流の機会に差があるため、今後も子どもの状況に配慮しながら無理のない形で交流の機会を広げていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様へ適切な情報を伝えられるよう、子どもとの関わりを大切にしている。送迎時の短い時間でのやり取りが中心となるため、こどもの様子や支援の意図について十分にお伝えできない場合がある。	必要に応じて個別にお話しする時間を設けるなど、保護者さまとより丁寧に情報共有を行い、こどもの成長や課題について共通理解を深めていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントサポート旭川さまの、セミナー日程を記載したパンフレットを配布させていただいている。	集団での研修機会は設定していないが、ご相談に対して適切なアドバイスを行えるよう努めている。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明している。変更時には書面にて配布している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談を行い意向を確認している。子どもに対しては気持ちを話しやすい環境に留意している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画を提示し説明を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談の機会を設けている。	適切な助言や支援を行えるよう、スキルを磨いていく必要がある。気軽に相談していただける環境をつくっていく。
	39	文母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		運動会やTボールの試合等で保護者さま同士の交流の機会を設けている。また、年に2回、親子バーベキューと親子行事を開催させていただいている。	親子ドッジボール大会にはごきょうだいでのご参加もあり、交流が生まれた。今後も楽しんでもらえる行事を開催していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		法人として対応委員会を設置しており、速やかに対応できるよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月通信を発行し、活動の様子をお伝えしている。毎月内容とねらいを記載した活動予定表を配布している。書面での配布とSNSの活用を併用し、適切な発信を心がけている。	忙しく、なかなか書面に目を通すことができないご家庭があるため、発信方法を考えていく必要がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		データや書面の持ち出しを禁止しており、徹底し管理している。通信へ写真を掲載する際は、名前が映りこんでいないか細心の注意を払っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚提示を取り入れたり、聞く準備を促すなど、子どもにあった意思の疎通に努めている。保護者さまへは、必要に応じて、連絡ノートへの記載やご自宅訪問・電話連絡やSNSを利用して情報を伝達している。	より適切に伝えられるよう、伝達方法を工夫していく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		作品展を開催し地域住民の方へ公開する場を設けたり、町内のゴミ拾いなどの地域貢献活動を行っている。	事業所の解放や不特定の住民を招待することに関しては今後も行う予定はないが、地域貢献活動等は継続して行っていく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		策定し、スケジュールに沿って研修や訓練を行っている。毎年4月にマニュアル類をひとつの冊子にまとめたものを保護者さまへ配布し、HPIにも掲載している。	今後もハンドブックにするなどし、より保護者さまに分かりやすくしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		策定し、スケジュールに沿って研修や訓練を行っている。情勢にあわせて訓練方法を変更している。	情勢にあわせて訓練内容を見直し、バージョンアップをしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		フェイスシートと面談にて聞き取りと、通院の際は服薬変更の確認を行っている。てんかんをお持ちのお子さまは、緊急時補助薬管理依頼書と医師の指示書を提出していただき、それに基づき確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		フェイスシートと面談にて聞き取りを行っている。専用のおやつ箱を使用したり、皿を区別することで、誰が見ても分かるようにしている。クッキングにおいても対応の食材を使用し、他児と明確に区別している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		策定し、研修や訓練を行っている。	環境や情勢に合わせてバージョンアップをしていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者さまへ配布し、HPIにも掲載している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故・ヒヤリハット報告書を作成し周知している。ヒヤリの提出が少ない課題があったが、積極的な働きかけにより提出が増えている。	職員同士で指摘し合える環境を整備し、より課題意識を高めていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を実施している。支援室全てに見守りカメラを設置し防止に努めている。	知らず知らずに行ってしまう不適切な支援に目を向け、研修や指導を行っていく。言葉遣いには充分気を付けていく必要がある。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束廃止委員会にて協議を行い、急な道路への飛び出しや自他が大きな怪我に繋がる行動がある時には、手を引いたり体を抑える等の対応を行う旨を計画に記載している。	どんな場面で手をひくのか等、事業所内で協議をしていく。